

別紙様式 1

令和 7 年度 自 己 評 価 表

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	令和 6 年度 実績値	令和 7 年度目標値及び実績値			改善策
					目標値	中間評価	最終評価	
【確かな学力】 児童の主体的な学びを促し、学力・学習意欲の向上を図る。	児童が主体的・協働的に学ぶ力を育てる。	○単元内自由進度学習を中心とした、選択肢や自己決定のある授業を行う。	〈ScTN 質問紙による意識調査〉 ①主体的・対話的で深い学びの経験(No.5) ②主体的に学びに取り組む態度(No.18) ③対話的に学習に取り組む態度(No.32) 肯定的回答をした児童の割合	① (新) ② (新) ③ (新)	①80% ②80% ③80%	①75% ②83% ③87.5%		・教師が児童の学びの道筋を考えながら、児童が自分に適した学習方法をそれぞれ選べるような環境づくりを整えていく。児童が「できた！」と思えるような授業づくり、ワークシートづくりをしていく。
	個々の学びの理解度を見取り、学力を向上させる。	○児童の理解や進度に合わせて ICT を積極的に活用し、タブレットドリル等を効果的に取り入れる。 ○読書に親しませ、語彙を増やす。	学期ごとのテストの平均点が目標値以上の児童の割合①② ①国語（知・技／思・判・表） ②算数（知・技／思・判・表） ③江田島市学力調査で維持・向上した児童の割合 ④各学年の目標冊数を達成した児童の割合 2・3 年:70 冊以上 4~6 年:60 冊以上	① (新) ② (新) ③ (新) ④ (新)	① 85.0/85.0 ② 85.0/85.0 ③各教科 70% ④50.0%	①63.3/80.0 ②67.7/51.6 ③未実施 ④0 %		・小テスト等で定着することも必要だが、漢字を使う必要性、よさを感じられるような工夫が必要と考える。 ・問題文や文章を理解するために、語彙を増やし、使えるようになることが必要と考える。読書するだけでなく、言葉の意味を調べたり、日記で新しい言葉を使って文章を書いていたりするなど、インプットとアウトプットの両方を意識した取組を取り入れていく。
【豊かな心】 地域を愛する心と心と協働を基軸とした人間関係を育成する。	協働的な体験活動を推進する。	○各学級でのサークル対話の実施。 ○異年齢集団の関わり合いと、児童の自治的な活動を充実させる。	〈児童アンケート〉 友達と協力して活動している児童の割合	(新)	80%	94.1%		・1 学期は各学級でのサークル対話の実施や運動会等を通して、友達と関わり合う機会が増え、協力して活動することができた。引き続き児童が関わり合う活動 (ETAJIMA GURURI 等) を実施して、児童が関わり合う場を充実させていきたい。
	地域を愛する心を育てる。	○「さとうみ学習」や、地域の「ひと、もの、こと」とのつながりを意識した学習活動の充実	〈ふるさと実感事業意識調査〉 自分が住んでいる地域が好きな児童の割合	80%	85%	91.1%		・多くの児童が地域の行事や子ども会に参加したり、総合的な学習の時間で地域の方と関わったりするなどを通して、地域のよさを感じている。各教科でも地域とつながりがもてるよう、授業づくりをしていく。
【健やかな体】 生活習慣の基礎を培うとともに、児童の体力を向上させる。	主体的に健康的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	○毎月がんばりウィークを設定し、目標を持って生活チェックを行い、自分の生活について振り返る。 ○学活や全校保健指導などで健康的な生活习惯やメディアコントロールについて指導を行う。	〈がんばりウィークアンケート〉 ①がんばりウィークに進んで取り組む児童の割合 ②自分の課題を改善しようとしている児童の割合 〈児童アンケート〉 ③早ね・早起きができる児童の割合 ④動画やゲーム 1 日 2 時間以内の児童の割合	① (新) ② (新) ③早起 87.5% ④55%	①80% ②80% ③80% ④70%	①94.1% ②88.3% ③早起 97.1% 早寝 70.6% ④58.8%		・メディアと生活習慣には相関関係があると考える。学級活動や保健指導を通して、メディアとの付き合い方やメディアコントロールについて指導を行い、健康的な生活習慣を身に付けられるようにしていく。
	主体的に体力・運動能力を向上させようとする態度を育てる。	○年間を通して業間運動を実施する。 ○マラソン大会やなわとび検定など児童の意欲を向上させる体育的行事を実施する。 ○授業前に体力の課題に即した、サーキットトレーニングを取り入れる。 ○5 月に体力つくりコーナーを設置する。	〈児童アンケート〉 ①業間運動に進んで参加している児童の割合 ②体育的行事に進んで参加している児童の割合 ③休憩時間や放課後に体を動かす児童の割合 ④2 回目(11 月)の記録が 1 回目を上回る児童の割合: 上体起こし・20m シャトルラン・50m 走	① (新) ② (新) ③ (新) ④ (新)	①80% ②80% ③80% ④75%	①88.2% ②97.1% ③82.3% ④未実施		・業間運動を実施したことで、日常的に運動に取り組むことができた。学期ごとに業間運動の音楽を変えたり、走った周数だけ色を塗るカードを用意したりして、引き続き楽しみながら業間運動を実施する。
【信頼される学校】 保護者・地域からの信頼に応える。	保護者や地域が協働しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。	○児童・保護者に対して迅速かつ丁寧な対応を行う。 ○学校の取組の様子をタイムリーに発信する。 ○地域学校協働活動の持続可能な取組を進めめる。	〈保護者アンケート〉 ①相談体制に対する満足度 ②情報発信に対する満足度 ③実施事業数	① (新) ②100% ③3 事業実施	①90% ②100% ③3 事業	①85.3% ②100% ③4 事業 (運動会、ブルーム清掃、図書館リニューアル、読書ボランティア)		・児童や保護者の声に耳を傾け、迅速・丁寧な対応を全教職員で取り組む。 ・HP やメール配信、紙媒体等、伝わりやすい方法を考えながら、学校の取組を保護者や地域に発信していく。 ・教職員間で、地域や保護者との協働が可能な場を見出していくよう共通理解を図る。
	働き方改革をすすめる。	○職員からの意見を収集し業務改善を積極的に行う。 ○心理的安全性のある働きやすい職場づくりを行う。	〈職員アンケート〉 ①働き方改革に対する満足度 ②働きやすい職場だと感じている教職員の割合	①90% ② (新)	①90% ②90%	①88% ②100%		・教職員間でのコミュニケーションを活発化することで、意見や考えを伝え合い、小さなことでもよいものは取り入れ、よりよいものにしようとする風土をつくる。